

令和2年度

学校教育計画



大阪府立伯太高等学校

(全日制課程)

目 次

1	学校教育活動の方針	1
(1)	学習指導の方針	1
(2)	特別活動等の方針	6
(3)	道徳教育及び生徒指導の方針	8
(4)	進路指導の方針	11
(5)	人権尊重の教育の方針	14
(6)	健康管理と指導の方針	16
(7)	学校組織の運営方針	18
(8)	教職員の研修方針・研修計画	19
2	行事予定表	20
3	教育課程表	24

※ 2 校務分掌 については個人情報が含まれるため削除しています

1 学校教育活動の方針

(1) 学習指導の方針

1. 本年度の達成目標

(1) 総合学科の長所を活かし、系列と多様な選択科目により、学習への興味・関心・意欲とともに、達成感と自信、「やる気」を育成する。同時に、授業内容と方法、教育課程の工夫・改善をより一層すすめて、「わかる」授業づくりと基礎学力の育成をはかる。

ア 公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、その成果を各教科で共有し、授業力の向上に努める。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」の肯定的評価を令和 2 年度で 80% 以上（平成 31 年度実績＝74.6%）とする。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を推進し、協同学習を行うとともに、生徒一人ひとりのプレゼンテーション能力の向上に努める。その実践や成果を共有して、全生徒の「自ら学ぶ力」の向上に資する取組みを工夫する。

ア P T A、同窓会、後援会と連携して、教育活動の推進に努める。学校教育自己診断の「自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率が令和 2 年度で 70%以上（平成 31 年度 64.7%）

(3) 様々な資格取得や、他の教育関係機関との連携を視野に入れ、地域の教育的資源の活用を努める。

ア 地域の人材・施設の活用を積極的に取り入れ、地域のニーズも取り入れながら、双方向の人材育成となるよう努める。

(4) 各教科の達成目標

(ア) 国語科

現代文 ・様々な文章に触れることを通して、語彙力や漢字力等の基本的な学力を養成する。

・作品の読解力として、要約能力と鑑賞能力の充実をはかる。

・作者や登場人物のものの見方や生きる姿勢を学び、自己に向き合う姿勢と態度を養成する。

・上記一連の学習を通して、自己表現能力とコミュニケーション能力の向上と充実をはかる。

古 典 ・古文・漢文を繰り返し音読することを通して、古典の世界に慣れ親しみ、基本的な学力を養成する。

・古典読解の基礎学力の充実と共に、昔の人のものの考え方や感じ方を学ぶ。

・古典の世界を味わい、現代生活の中で活かす能力を養う。

(イ) 社会科

日本史・・・個々の歴史的事実を性格に把握し、時代の大きな流れのなかに位置づけて理解する態度を養う。

世界史・・・世界の歴史を学ぶことにより、世界の諸民族の歴史を正しく認識し、国際社会における相互理解を深める。

現代社会・・・人間の尊重と科学的な探求の精神にもとづき、広い視野に立った現代社会に対する判断力の基礎と、人間の生き方について自ら考える力を養う。

地理・・・世界及びわが国の地理、とりわけ自然地理学、人文地理学、地誌などの学習を通して、世界各地域、そしてわが国に対する理解を深める。

(ウ) 数学科

- ① 基礎的事項を徹底的に指導すると共にその定着をはかる。
- ② 放課後の個人指導や定期的な集団指導を行う。
- ③ 1年次に習熟度別に2クラス3展開し、目の行き届いた授業を行う。

(エ) 理科

- ① 自然現象に対する興味・関心を促し、日常生活と自然との関係性を科学的に考える力を養う。
- ② 実験機器や設備の充実をはかり、実験・観察の機会を多くする。
- ③ 理科の各科目及び他教科との連携を密にし、科学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
 - ・化学基礎…… 物質とその変化への関心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てる。
 - ・科学と …… 身の回りの事物・現象や科学技術を題材に、科学的な見方や考え方を養い、人間生活 …… い、科学に対する興味・関心を高める。

(オ) 保健体育科

- ① 健康で安全な生活を営むため、日常生活において健康について考える習慣づけをはかる。
- ② 1年次は個人の発達、2年次は社会性の習得、3年次は生涯スポーツに重点をおき、体力の向上と健康・安全に留意して自主的に運動を実践する態度と能力を身につけさせる。
- ③ 配慮の必要な生徒を含めた集団活動づくりをし、全体的な活動と個々に応じた活動との調整およびその評価についての研修・実践の充実をはかる。

(カ) 芸術科

- ① 芸術科の学習を通し、直感的な思考力や創造的な構想力を養い、表現する喜びを体得させる。
- ② すぐれた文化的芸術的な作品に接することによって鑑賞力や自分で表現する力を養い、また相互鑑賞の中でコミュニケーション力を身につけさせる。
- ③ 芸術科における基本的な技術や知識を身につけさせ、その能力を自己表現の場で発揮できる力を養う。

(キ) 外国語（英語科）

本校生徒各々の学習到達度には大きな差異があるので、その実態に対処するため、次の点に留意して指導していきたい。

- ① どの段階の生徒も積極的に参加できる授業を研究、開発していく。具体的方策として補充問題をプリントして与え指導していく。
- ② 到達度の低い生徒の早期発見につとめ、放課後の補充指導や個別指導を行う。
- ③ 到達度の高い生徒や学習意欲をもった生徒に対して、放課後個別に補習を行い、自主的学習の習慣化をはかる。
- ④ 習熟度別少人数展開授業を実施し、きめ細かな指導を試みる。
- ⑤ 大阪府外国人英語講師とのT-Tを取り入れ、生徒が興味をもてる授業を展開する。

(ク) 家庭科

- ① 人の一生と家族・家庭、及び福祉、消費生活、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
- ② 子どもの発達の特長や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。
- ③ 手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。

(ケ) 情報科

情報通信ネットワークを通してコミュニケーションするための基礎的な知識、技術を身につけさせる。具体的には、次の事柄を目標とする。

- ・パソコンで日本語の文章が入力できる。
- ・プレゼンテーションソフトを用いてプレゼンテーションを作成、発表できる。
- ・情報を収集、加工、発表できる。
- ・文書作成ソフトを用いて、文書の作成ができる。
- ・著作権、情報社会でのモラルについて基本的なことがらを理解している。

(5) 総合的な探究の時間・総合的な学習の時間

「総合的な探究の時間」・「総合的な学習の時間」として、「グローバル・スタディーズⅡ」「グローバル・スタディーズⅢ」を開講している。「自分と社会の関係を身近な視点と大きな視点で見つめ、自身の進路を切り拓くための時間」として取り組む。

- ① ありのままの自分を受け容れ、その延長に他者を尊重する態度を育む。
- ② 具体的な人間の生き方を通してこれまでの自分を対象化し、これからの自分の姿を想像する力を養う。
- ③ さまざまな教材を通して個々の問題に気づき、意識化することで、その解決のための知識・技能を育む。
- ④ 「進路への自覚」を促し、自己と社会の関係を総合的に理解し行動する能力の育成をはかる。
- ⑤ さまざまな課題を調べ、発表する経験を通して、自ら課題を見つけ解決する力を養う。

以上を留意点として、進路指導部・人権教育委員会との連携を図りながら、人権教育の視点をもったキャリア教育の創造をめざすものとして取り組む。

(6) 産業社会と人間

自己啓発的な体験学習やグループワークなどを通して、職業の選択決定に必要な能力、将来の職業生活に必要なスキルやコミュニケーション能力を養うとともに、自己の充実や、生きがいを目指し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を育む。また、現実の産業社会や、その中での自己の在り方・生き方について認識させ、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度を育成する。

- ・人間関係づくりや意見交流をはかり、体験学習等を通して試行錯誤しながら自分らしさを見出す。
- ・職業の選択決定に必要な能力・態度、また将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力を養うとともに自らの適性に合った科目選択を行う。
- ・若者に関する雇用の問題や多文化共生等に関する社会的課題を学び、社会参加のためのスキルやメディアリテラシーの力を養う。
- ・豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度の育成を図る。

以上をもとに、各分掌と連携を図りながら、キャリア教育の創造を目指すものとして取り組む。

2. 学習指導方法等の研修計画

- (1) 年間計画に従い、学習指導等について研修の場をもつ。

職員会議…各学期末の成績会議の場で生徒の実態、指導内容等の情報交換をおこなう。

原級留置者・中退者を出さないよう、教務内規の運用について研修する(1・2月)

学年会議…毎週月曜日の学年会議の場で学級担任と教科担任との情報交換をおこなう。

定期考査毎に学年の全授業担当教員で行う成績会議で、教室での生徒の状況や成績について研修する。

教科会議…教科会議で、教科指導計画、指導法、指導内容の取り扱いについて常に検討する。

- (2) 教育課程・学習評価に関して、個々の分野を通して専門的な研究をすすめる。

- (3) 研修機関が実施する研修会・研究会等に積極的に参加し、研修を重ねる。

3. 学習指導の改善と原級留置・退学の防止

- (1) 進級内規が法令の趣旨に沿い、生徒の実態に合うよう整備に努める。
- (2) 生徒の成績判定は、教科会議、学年会議、成績判定会議（議長は教頭、構成は全教員による）の3つの会議を経て校長が決定する。規定内の単位不認定科目を持つ生徒については、追認指導を行い、単位認定ができるよう努める。
- (3) 事前指導を含む救済措置など、こまめに指導し基礎学力の定着を図る。
- (4) 成績不振者に対しては、放課後等の指名補習や特別課題を課するなど、きめ細かな指導を講じる。
- (5) 毎週行う学年会議で情報交換を行い、学年全体としての指導方針を確認し実行する。また各考査後の学年成績連絡会議を利用して全担当教員が課題の多い生徒の状況を把握することに努める。休みがちな生徒に対しては、担任から毎朝家庭に電話をしたり、授業担当者による積極的な声かけなど、きめ細かな指導に努める。
- (6) 保護者との連携は担任を中心とした電話、個人面談、家庭訪問等を通じて、連絡を密にする。また、6月中旬、11月中旬に三者懇談期間を設ける。また必要に応じて担任を中心として指名懇談を実施する。

4. 年間授業日時数の確保についての措置

- (1) 年間行事の精選
実授業日時数を確保するため学校行事を精選し、学力の向上をはかるべく計画する。
- (2) 自習時間の補充
出張等のある場合、事前に時間割変更を行う。変更が不可能な場合は当該教科内あるいは各学年教務が割り当てた担当者による自習を行う。ただし、課題やテキスト等を必ず準備し、教科指導の空白を作らないよう配慮する。
- (3) 創立記念日や夏期休業中に補充授業を組み、授業日数の不足を補う。

(2) 特別活動等の方針

1. 本年度の達成目標

(1) ホームルーム活動

- (ア) 集団の一員として、一人ひとりの生徒が学校生活に適応し積極的に協力し合える体制をつくりあげる。
- (イ) 教科・科目の学習や生徒会活動等の基礎集団として自覚させると共に、ホームルーム成員間の人間関係の醸成に努める。

(2) 生徒会活動

- (ア) あらゆる機会を通じて、生徒の自主活動の向上をはかる。
- (イ) ホームルーム活動が生徒会活動の基礎であるという認識の下に、様々な行事・催しにクラス全体として取り組む体制づくりを、各種委員会を通じて追求する。
- (ウ) 体育祭・伯太祭を生徒会の重点行事として位置づけ、精力的に取り組む中で、生徒会執行部・各種委員会を積極的に担う人材育成をはかる。

(3) 部活動について

- (ア) 生徒相互の理解と協力、教員と生徒との理解をはかる。
- (イ) 適正な指導により活動効果を高める。

2. 特別活動の年間指導計画

(1) ホームルーム

(ア) ショート・ホームルーム

毎日、始業前および終業後にショート・ホームルームを行い、朝学習、生徒の状況の観察を行う。

(イ) ロング・ホームルーム

木曜日の6限に実施し、学年の年間計画に沿ってクラス担任の指導によって自主的に行う。

ホームルーム計画

月	内 容		
	1 年	2 年	3 年
4			
5			
6	1年生のスタートにあたって オリエンテーション 進路アンケート キャリアパスポートファイル作成 クラス開き 学級役員選挙 クラブ体験 保健HR	進路希望調査 2年生のスタートにあたって 学級役員選挙	進路希望調査 3年生のスタートにあたって 学級役員選挙 進路HR（進路の手引き配布） 校内進路説明会 薬物乱用防止HR
7	人権HR 期末考査に向けて 科目選択予備調査	夏休みを有意義に過ごすには 人権HR 進路HR 薬物乱用防止HR 学年集会、期末考査に向けて 情報モラル講話	夏休みを有意義に過ごすには 期末考査に向けて 進路HR 人権HR 情報モラル講話
8	全校集会 避難訓練	夏休みの反省と2学期への決意 避難訓練	避難訓練
9	伯太祭の企画について 系列・自由選択科目 選択指導 進路フェスタ事前指導 体育祭に向けて 進路フェスタふり回り	夏休みの反省と2学期への決意 体育祭に向けて 自由選択科目 選択指導	自己の進路に取り組む（進路HR） 体育祭に向けて
10	中間考査について 伯太祭に向けて 学年集会	伯太祭のとりくみ 伯太祭に向けて 学年集会	中間考査に向けて 学年集会 伯太祭に向けて
11	伯太祭準備 伯太祭の反省、ふり回り 生徒会役員選挙 期末考査に向けて	伯太祭準備、 伯太祭の反省、ふり回り 学年集会 期末考査に向けて 修学旅行に向けて	伯太祭準備 進路HR 期末考査に向けて 生徒会役員選挙
12	進路HR 人権HR 冬休みの学習と生活について	進路HR（進路別説明会） 人権HR 生徒会役員選挙 修学旅行に向けて 冬休みを有意義に過ごすために	人権HR 冬休みを有意義に過ごすには 卒業に向けて
1	冬休みの反省 学年集会 スポーツ大会	進路に向けて 学年集会 進路HR	学年末考査に向けて 学年集会 卒業式について
2	1年生をふりかえる 学年末考査に向けて 進路HR、人権HR	進路講座 2年生をふりかえる 学年末考査に向けて、進級に向けて スポーツ大会	高校生活をふりかえって
3	学年の終わりにあたって	学年の終わりにあたって	

(3) 道徳教育及び生徒指導の方針

1. 本年度の達成目標

- ① 学校生活を意義あるものにするため、規律・規範意識を高めるよう個々の生徒の指導にあたる。
- ② 問題行動を未然に防ぎ、ルールを守ることでできる生徒の育成を目指す。
- ③ メールやインターネットを利用したいじめなど、重大な事象にならないよう人教委と協力して指導する。

2. 個別指導

ひとりひとりの生徒の持つ問題点を明らかにして、現象面の問題を解決するよう努力する。

- ① 多様な生活実態をかかえた生徒個々の問題に対処する為、学年会議などの機会に積極的な問題提起を行い、体制として問題行動に対処していく事に努める。
- ② 問題行動に対しては担任、関係教員、家庭との連携をしっかりと保ち、生活背景をふまえた指導体制の確立につとめるとともに、関係機関との連携を図りながら問題の解決に努める。
- ③ 両親あるいは一方の親がいない家庭、また経済状態が思わしくない家庭の生徒の実態把握に努め、人教委と密接に連携し積極的な動きを援助する。

3. 集団指導

全教員があらゆる教育活動の場で、集団の中で自律ある行動をめざし学級・学年単位の指導に当たる。

- ① 定期的な学年集会などを通じて、全体の中の個人を自覚させ、集団生活の意義を理解させる。
- ② 学校行事などの実施にあたっては、生徒会指導部やその他の係との連絡を密にし、組織的に指導する。

4. 交通安全指導

- (ア) 原付自転車・フル電動自転車の乗車について、家庭の指導への協力を求め、問題に対しては生徒指導部できめ細かな指導を行う。
- (イ) 安全教育については特別の時間を設定し、全ての生徒に対し講演等を行う。その際、和泉警察署等、諸機関の協力を得る。

4 月	
5 月	
6 月	マスク・体調管理指導、 下校時・登校時通学指導（学校周辺）、身だしなみ指導（頭髪・服装）
7 月	マスク・体調管理指導、マナーアップデー、情報モラル講習（全学年） 下校時・登校時通学指導（学校周辺）、身だしなみ指導（頭髪・服装）
8 月	終業式 生徒指導の講話（全学年） 下校時・登校時通学指導（学校周辺）、身だしなみ指導（頭髪・服装）
9 月	遅刻指導強化週間、マナーアップデー、堺泉北高等学校校外補導連絡協議会 下校時・登校時通学指導（学校周辺）、身だしなみ指導（頭髪・服装）
10 月	遅刻指導強化週間、薬物乱用防止講演（2年）、堺泉北高等学校校外補導連絡協議会 下校時・登校時通学指導（学校周辺）、身だしなみ指導（頭髪・服装）
11 月	遅刻指導強化週間、マナーアップデー、 下校時・登校時通学指導（学校周辺）、身だしなみ指導（頭髪・服装）
12 月	終業式 生徒指導の講話（全学年）、学警連絡会（和泉警察署少年係）、 下校時・登校時通学指導（学校周辺）、身だしなみ指導（頭髪・服装）
1 月	始業式 生徒指導の講話（全学年）、遅刻指導強化週間、 下校時・登校時通学指導（学校周辺）、身だしなみ指導（頭髪・服装）
2 月	遅刻指導強化週間、学警連絡会（和泉警察署少年係）、 下校時・登校時通学指導（学校周辺）、身だしなみ指導（頭髪・服装）
3 月	終業式 生徒指導講話（全学年）、合格者説明会で生徒指導講話（新入生） 下校時・登校時通学指導（学校周辺）、身だしなみ指導（頭髪・服装）

5. 学校図書館の利用指導並びに読書指導計画

(1) 運営

- (ア) 係職員と各クラス選出の生徒図書委員は全体奉仕の精神で日々の運営と管理にあたる。
- (イ) 職員は主として図書、雑誌、各種の資料の受け入れ、整理、会計等の事務処理を分担し、生徒委員の指導にあたる。
- (ウ) 生徒委員はクラスの生徒と図書館との間の情報伝達の役割を担う。
- (エ) 図書購入に際しては、利用者の意向を十分反映するよう予算の執行にあたる。

(2) 図書館利用指導と読書指導

- (ア) 一年生を対象とした図書館オリエンテーションをクラス毎に行う。
- (イ) 年間計画の中に読書指導及び図書館利用の時間を組み込み、図書館には複本を用意してその活動を支える。
- (ウ) 教科担当と連携して、適当な教材を提供する場として図書館を位置づける。
- (エ) 広報活動を充実させ、図書館報「伯楽」や図書館ニュースを発行する。

(3) 情操教育並びに生活指導との関連

- (ア) 館内では公共物の取扱いをていねいにし、生徒相互のよい人間関係がうちたてられるよう閲覧態度に特に注意する。
- (イ) 人間形成の一助として、また生涯教育としての読書の意義の重要性を理解させるとともに資料の調べ方に慣れさせる。
- (ウ) 読書による思索をすすめ、物の見方、考え方を養い、正しい判断力をつけさせる。
- (エ) 館内をうるおいのある環境とし、よき社会人となるための読書エチケットを守るよう配慮する。
- (オ) 図書館の蔵書管理にコンピュータを活用する。
蔵書データベースを作成し、図書貸出・返却、蔵書点検には、バーコードリーダーを活用し、処理の迅速化・正確さを図る。併せて、蔵書検索、貸出統計も可能にし、図書館活用の一助とする。

(4) 進路指導の方針

高校生は、一生を通じて心身ともに発達する青年期を迎え、自我が目覚めるとともに、未来への理想を求める時期にある。その進路の設計に当たっては、客観的に自己を理解させるとともに、社会や職業についての幅広い理解に基づいて、最適な進路を選択させることが肝要である。

キャリア教育の観点に立ち、1学年から3学年までその発達段階に応じた体系的な進路指導を産業社会と人間および総合的な探究の時間と連携して行う。外部諸機関の協力の下に、各自の進路設計をしていく中での気づきや進路決定のための体験学習の機会を数多く設ける。

同時に生徒自らの真摯な努力によって、自己の成長をはかり、自らの弱点を積極的に克服し、社会の一員としての自覚を高めることが必要であることを気づかせる。

上記実現のため、各学年における進路指導目標を次のように設定する。

- ・ 第1学年

高校生活への適応をはかり、自己理解を深めさせるとともに、社会や職業に関する理解を深めさせ、将来の進路について具体的な目標を追求する意欲をもたせる。

- ・ 第2学年

自己理解と職業理解を統合させることにより、各自が自己の進路目標を設定し、その目標を達成するためどうしたら良いか考えさせ、併せて、実力の涵養をはかる。

- ・ 第3学年

進路先についての状況や各自の実力を客観的に知る手立てを与え、能力・適正に応じた具体的な進路を選択させ、生徒の進路実現をはかる。

進路指導計画

月	第 1 学 年	第 2 学 年
4		
5		
6	入進路希望調査 学オリエンテーション 進路ホームルーム	進路希望調査 学年初めのオリエンテーション 進路ホームルーム
7	進路ホームルーム	進路ホームルーム
8		オープンキャンパス
9	基礎力診断テスト 進路ホームルーム 校内進路ガイダンス（進路フェスタ） 基礎力診断テストふり返り	基礎力診断テスト 進路ホームルーム 基礎力診断テストふり返り
10	進路ホームルーム	
11		進路ホームルーム
12	進路ホームルーム（職業講話）	校内進路ガイダンス
1		進路ホームルーム
2	進路ホームルーム	進路ホームルーム （3年進路選択に向けて）
3		

月	第 3 学 年	
	就 職 関 係 行 事	進 学 関 係 行 事
4		
5	企業訪問（電話と郵送で）	
6	進路希望調査、校内進路個別相談会（就職） 進路保護者説明会、保護者向け進路講演会 学校幹旋就職申込書受付 校内進路説明会（就職）、外部講師の模擬面接	進路希望調査 校内進路個別相談会（大学・短大・専門学校） 進路保護者説明会、保護者向け進路講演会 大学・短大・高看模試① 公務員模試
7	求人票受付開始、進路大テスト 模擬面接（就職） 求人情報一覧表配布、求人票閲覧 面接指導	オープンキャンパス 大学・短大・専門学校説明会 （指定校推薦について）
8	応募前職場見学、求人票閲覧 就職受験申込書受付 就職者模擬面接	オープンキャンパス 大学・短大・高看模試②
9	就職校内選考、就職応募書類作成 就職希望者直前指導 就職試験（全員の内定まで） 公務員試験	模擬面接 指定校校内選考 進学説明会（指定校推薦出願説明会） 専門学校出願開始（AO） 大学・短大総合型選抜受付開始 大学入学共通テスト受験案内配布と出願説明会
10	就職応募書類発送、就職者模擬面接 国家公務員試験 地方公務員試験、地方公務員試験二次試験	大学入学共通テスト出願書類受付 専門学校入試受付開始
11	国家公務員二次試験 合同求人説明会 ①	関西の看護学校入試受付開始 私大・短大推薦型選抜受付開始
12	泉大津ハローワーク体験ツアー	看護学校以外の医療関係専修学校受付開始 大学入学共通テスト受験票交付
1		関西私大入試受付開始 各国公立大で二次試験願書受付 大学入学共通テスト実施 関西の看護学校入試開始 関西の私大入試開始
2	就職セミナー 合同求人説明会 ② 就職支援登録カードの記入提出（希望者）	准看護学校・医療専修学校入試開始 国公立大前期試験実施
3		国公立大後期試験実施・私立大学後期試験実施 国公立大合格者発表

(5) 人権尊重の教育の方針

1. 基本方針

自尊感情を大切にし、自他ともに尊重できる豊かな人権感覚を育み、新たな人権文化の構築に寄与できる人材の育成を目指す。

2. 人権教育の発展

人権教育は、差別の現実から学ぶ教育実践をもとに同和教育としてはじまり、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送り自らの可能性を引き出すことができる教育活動・学校づくりへと発展してきた。それは、総合的な学習の時間である「グローバル・スタディーズ（GS）」として具体化され、「進路保障は人権教育の総和である」といわれてきた進路指導についてもGSと合わせてキャリア教育として整理された。一方、さまざまな特性のある生徒に対しカウンセリング活動を充実させ、障がいのあるなしに関わらず生徒に必要とされる支援を行う体制の整備に努めている。

総じて一人ひとりの生徒が地域や社会づくりに参画し、多少の困難があろうとも人権文化の構築を担える市民として成長できるよう、本校での学びがその下地を育む教育活動を推進する。

3. 人権文化の4つの領域

GSでは「自分と社会の関係をグローバルに見つめ、自分の進路を切り拓く」力を育むことを教育目標としている。これは、人権文化(culture of human rights)の4つの領域とかかわり、①自尊感情とかかわる「個の領域」、②文化や民族、障がいの有無、性的指向性が異なるなど他者との豊かな関係性を構築する「他者との関係の領域」、③社会に参画し問題解決のために行動しようとする「社会との関係の領域」、④環境問題や食や健康とかかわる「自然との関係の領域」になっている。この4つの領域を念頭に日々の教育実践を点検し、地域の課題と向き合うことによって、グローバルな教育実践を目指す。

4. 人権教育の4つの側面

本校は、産業社会と人間・総合的な学習の時間や人権HRをはじめ、教科指導、生活面での支援や指導など、あらゆる場面において人権教育を推進している。これは、人権教育の4つの側面と関連している。

- ① 人権としての教育（教育機会の保障）
- ② 人権についての教育（個人人権課題を通して人間に対する多面的な捉え方や文化・社会・世界に対する批判的な見方を育てる）
- ③ 人権を通じた教育（人権が尊重されている環境・雰囲気や関係性自体が人権感覚や意識を育む）
- ④ 人権のための教育（豊かな人権文化を築く資質や力量を備えた子どもを育てているか）

人権教育の4つの側面を総体として実践することによって人権教育の創造、すなわち、人権文化の創造をめざす。

5. 人権教育とキャリア教育

人権教育においても「進路保障は人権教育の総和である」という取り組みからキャリア教育へと発展してきた。キャリア教育は、学校生活から職業生活へとスムーズな移行のために必要とされる。そのためには、社会に適応できる能力の育成だけではなく、若年労働者が厳しい労働環境におかれていた現状を見るならば、「社会との関係」においても働く者の人権を尊重し、自己実現をめざす力の育成に努める。

6. いじめ防止・対策委員会

いじめは、その子どもの将来にわたって内面を深く傷つけるものであり、子どもの健全な成長に影響を及ぼす、まさに人権に関わる重大な問題である。そのため、いじめを起ささない、生徒をいじめの被害者にも加害者にもしないという姿勢で、未然に防止することに力を入れている。全教職員が、いじめはもちろん、いじめをはやし立てたり、傍観したりする行為も絶対に許さない姿勢で、どんな些細なことでも必ず親身になって相談に応じることが大切である。そのことが、いじめ事象の発生・深刻化を防ぎ、いじめを許さない生徒の意識を育成することになる。

そのためには、学校として教育活動の全てにおいて生命や人権を大切にすることを貫くことや、教職員自身が、生徒を一人ひとり多様な個性を持つかけがえのない存在として尊重し、生徒の人格のすこやかな発達を支援（いやゆる、人権を通じた教育）するという生徒観、指導観に立ち指導を徹底する。

7. 教育相談

(1) 目的

生徒は、日常的に人間関係、家庭環境の悩みや漠然とした将来への不安を抱えながら学校生活を送っている。中には、コミュニケーションでの課題を抱えている生徒も在籍する。

教育相談の目的として、支援を必要とする生徒や保護者が、相談活動を通してエンパワメントされることにある。そのためにまず求められるのは、生徒一人ひとりの自尊感情を育み、いじめや人権侵害がない人間関係づくりが求められる。生徒のさまざまな不安や悩みについて相談にのり支援できる教職員および学校としての体制を整える。

(2) 相談室体制

学校の教育相談機能の充実を図るため、大阪府立高等学校スクールカウンセラー（以下「SC」）やスクールソーシャルワーカー（以下「SSW」）が派遣されている。

- ① 人権教育推進委員が、教職員一人ひとりのカウンセリングマインドの向上のため、さまざまな情報提供や校内研修を実施する。
- ② ①を充実させるため、研修等に積極的に参加し、実践力向上に努める。
- ③ 生徒・保護者、教職員からの相談に応えるため、SCやSSWの活用の充実を図る。
SCとSSWの役割は、教職員へのコンサルテーションを基本とする。
教職員だけでは支援困難と考えられるケースについては、カウンセリングの実施や、適宜、外部機関との連携も含めたケース会議をもつことによって、生徒支援の充実を図る。
- ④ 必要に応じて、保健部や生活指導部との連携を図り、生徒が安心して学校生活を送れる学校づくりを目指していく。
- ⑤ 保健室に、体調不良の生徒だけでなく、精神的不安をかかえ、居場所を求めて、来室する生徒も多い。そのような生徒の居場所づくりの一環として、相談室を昼休み開放し、保健室への生徒の集中を軽減したい。

(6) 健康管理と指導の方針

1. 本年度の達成目標

- ① 健康の意識を高め、保健的生活習慣の保持・増進をはかる。
- ② 安全と美化に対する意識を高め、豊かな心を育てる環境づくりをはかる。
- ③ 熱中症や各種感染症の予防と知識の普及をはかる。

2. 学校保健安全計画

(1) 学校保健計画

① 健康異常の早期発見

学校医・学校歯科医と緊密に連絡し、健康診断、健康相談の実施や、全職員の健康観察を通して健康異常の早期発見につとめ、教育上の連絡や対処を適正に行うとともに異常者には早期治療と完全治癒の態度を養うようにする。

② 自発的な健康管理

平素より保健室の効果的利用を促し、意識を高め、自ら健康管理につとめられる能力を養う。各種の機会を通じて「活動」「休養」「栄養」のバランスよい生活リズムをつくれるよう促す。

③ 環境の整備と衛生美化

学校薬剤師との連絡を密にし、環境・衛生検査を励行し、正常環境の維持につとめる。

清掃活動を励行するとともに自らのまわりを清掃する習慣・態度を養う。

保健委員、生活委員による環境美化活動を活性化し、美化意識の高揚をはかる。

④ 薬物乱用防止啓発

学校保健関係者や専門家と連携し、効果的な啓発活動について具体的な取り組みについて考え、普及活動に努める。

⑤ 熱中症を含む救急法の研修を計画・実施することにより、一層の安全確保に努める。又、各種感染症の発生防止のため、情報の収集や知識の普及をはかり個人の意識を高めさせる。

(2) 学校安全計画

① 安全点検を励行し、たえず危険を感じない環境づくりをはかり安全に徹した行動習慣を養う。

② 施設・用具の正しい取扱いについての知識と技能を理解習得させる。

③ 危険を予測する能力を養い、危険が予測される場面で特に注意深い行動が出来る習慣態度を養う。

④ 校内災害時の実態把握に努め事後処置の徹底をはかるとともに、連絡調整の万全を期す。

⑤ 定期的避難訓練等の実施をおこない、非常時体制の確立をはかる。

⑥ 指導者は絶えず指導監督に当たり生徒の健康観察を励行するとともに、安全に対する関心を高め災害に対する応急処置方法を周知させておく。

学校保健安全計画年間予定表

学期	月	学校行事	安全管理		安全指導	組織活動	月間目標
			環境	心身・生活	教科・ホームルーム 行事・生徒会部		
I	4		清掃分担指定(保) 部活動場所割 (生徒)(体)			保健部会	
	5		校内通路点検(安) 植木の防虫(事) 防災器具点検(事)				
	6	始業式 個人面談 保護者懇談	照度検査(保) 水質検査(保) プール清掃整備(体) 環境美化週間(保)	通学方法許可(生) 結核検診(保) 身体測定(保) 心臓検診(保) 内科検診(保) 性格検査(進) 服装点検(学) 疾病治療勧告(保)	校内生活の心構え (各部)救急措置方法 授業のうけかた (各科)部活動練習 について(生徒) 心身の状態把握(学) 救急法講習会(保) 雨天時の部活動(生徒) 基本的生活習慣(生・学) 清掃の徹底(保) 水泳時の注意(体)	P T A 保体委 校外清掃 清掃点検	「基本的週間」 「体力づくり」 「環境美化」
	7	期末考査 終業式 インターンシ ップ	大掃除(保) 安全点検(保) 床の油ぶき(事) 夏季空気検査(保) ダニ検査(保)	内科検診(保) 検尿一次(保) 夏期合宿前事故防止 検診(保) 運動器検診(保) 薬物乱用防止啓発(保)	女子防犯(生) アルバイト旅行(生・学) 休暇中の生活(生・学)		「熱中症予防」
	8	インターンシ ップ 始業式	不良施設・設備の 修理(事)	職員健康診断	夏季部活動(生・学) 避難訓練(保)		「通行安全」
II	9		体育施設点検と 除草、か・ハエの 駆除 環境美化週間(保) 秋季飲料水検査(保)	歯科検診(保) 服装点検(学) 内科健康相談 歯科健康相談	基本的生活習慣(生・学) 避難訓練(保)	校外清掃	「集団行動 の安全」 「むし歯予防・ 治療」
	10	中間考査 体育祭		歯科検診(保) 薬物乱用防止教室(保) 内科健康相談 歯科健康相談	集団の行動(学)	清掃点検	「食中毒予防」
	11	文化(伯太祭) 保護者懇談 期末考査(2年)	暖房器具点検(事) 照度検査(保)	歯科検診(保) 歯科健康相談	物品の管理(学・各部)	校外清掃 P T A 保体委	「環境美化」

	12	修学旅行(2年) 期末考査 (1,3年) 終業式	大掃除(保) 安全点検(保)	服装点検(学) 性教育講演会 修学旅行前・冬期合宿 前事故防止検診(保)	アルバイト、旅行(生) 交通安全指導(生) 休暇中の生活(生・学) 冬季部活動(生)		「AIDS啓発」
Ⅲ	1	始業式 スポーツ大会 (3年) 学年末考査 (3年)	大掃除(保) 清掃分担変更(保) 運動場砂じん措置(体)	内科健康相談 歯科健康相談	教室の換気(保・各科)	校外清掃 学校保健委 員会	「感染予防」
	2	ス ポー ツ 大 会 (1,2年) 学年末考査 (1,2年)	植木の手入(事) 冬期空気検査(保) 大掃除(保) 安全点検(保)	服装点検(学)	体力づくり(体) 集団の行動(学) 基本的な生活習慣(生・学)	校外清掃	「環境美化」
	3	卒業式 終業式	教室教具の整備 (事) 清掃用具の整備	春期合宿前事故防止 検診(保)	交通安全指導(生) 休暇中の生活(生・学) 部活動練習(生徒)	清掃点検	

(7) 学校組織の運営方針

1. 本年度の課題

- (1) 多様化する生徒に対応して教育効果を高めるため、校務内容を整理するとともに、校内組織の活性化と校務処理の適正化をはかる。校内研修の充実に努めるとともに校長のリーダーシップの下、教職員の意志統一と共通理解をいっそう深め、「自らが学び、考え、表現し、主体的に行動できる力」を育てる教育活動を展開する。
- (2) 学校運営協議会の意見や「学校教育自己診断」「授業アンケート」等を参考にし、「学校経営計画」について必要に応じて計画や方策を修正する。
- (3) 各学年・分掌・教科等および教職員個人において年度の取組みを年度末に総括し、成果と課題を明らかにし、次年度に向けて改善計画を策定する。
- (4) 本校の教育活動を充実させるとともに、外部への情報発信に努める。
- (5) 家庭との連絡を密にし、学校に対する諸要望に即応する姿勢を確立し、また、中学校および地域との連携により、本校を地域に根ざした高等学校と位置づけることで、教育効果の向上を期す。
- (6) P T A、後援会、同窓会等の教育力を最大限に活用して、生徒が充実した学校生活を送れるようにするとともに、部活動の活性化を図る。

2. 施設及び設備の管理計画

- (1) 教室及び管理室ごとに管理者を定め、使用後のあと始末と戸締りを徹底するとともに、火気取り扱いには特に注意を払い、保全と活用の調和に努める。
- (2) 定期的に電気設備・消防設備の保守点検を実施するとともに、防災とあわせて施設・設備の保全について万全を期す。

- (3) 避難訓練・防災訓練を適切に実施し、万々に備える。
- (4) 校舎内外の清掃に留意するとともに、施設・設備等について、ものを大切にする心を養い、全教職員による定期的な安全点検を実施し、生徒の安全確保に努める。
- (5) 天災等、非常変災に対処するための施設および設備の保全については、別に学校防災計画を策定し、定められた任務役割に従って教職員が互いに協力して保全に努める。

(8) 教職員の研修方針・研修計画

1. 本年度の重点目標

学校の総合的な教育力を高めるために、教職員研修を充実させる。生徒の置かれている生活実態に学び、生徒の人権感覚を育むために、教職員の人権諸問題への認識を深めていく。生徒の学力保障の観点から、生徒のつまずき（留年や中退）の分析に努め、SC、SSW を活用した教育相談機能の充実やキャリア教育のより一層の推進を図っていく。また、経験の少ない若手教員が増える中、学校で起こりうるさまざまな問題に対処できるように研修の充実を図る。

2. 年間計画

- 4月 新転任教職員オリエンテーション
- 6月 G Suite for Education の導入に向けて
- 7月 個人情報保護、サービス
- 7月 情報モラル
- 7月 救急法
- 9月 G Suite for Education を活用したオンライン授業
- 10月 教育相談
- 11月 人権研修（同和問題）
- 12月 観点別評価（各教科の進捗状況共有）
- 1月 総合学科の振り返りと新カリキュラムに向けて
- 3月 観点別評価（次年度施行に向けて）

様式1 令和2年度 府立学校行事予定表

4 月		5 月		6 月				
日	曜日	行事	日	曜日	行事			
1	水		1	金				
2	木		2	土				
3	金		3	日	憲法記念日			
4	土		4	月	みどりの日			
5	日		5	火	こどもの日			
6	月		6	水	振替休日			
7	火		7	木				
8	水		8	金				
9	木		9	土				
10	金		10	日				
11	土		11	月				
12	日		12	火				
13	月		13	水				
14	火		14	木				
15	水		15	金				
16	木		16	土				
17	金		17	日				
18	土		18	月				
19	日		19	火				
20	月		20	水				
21	火		21	木				
22	水		22	金				
23	木		23	土				
24	金		24	日				
25	土		25	月				
26	日		26	火				
27	月		27	水				
28	火		28	木				
29	水	昭和の日	29	金				
30	木		30	土				
			31	日				
小計	学 年		小計	学 年		小計	学 年	
	教科・科目の授業日			教科・科目の授業日			教科・科目の授業日	
	学校行事日			学校行事日			学校行事日	
	休業日			休業日			休業日	

50×3限 (AM/PM)
 1～3限 出席番号 奇数 番生徒登校
 4～6限 出席番号 偶数 番生徒登校
 *2週目は 奇数偶数逆

各学年の欄……授業日は空欄、学校行事日は「△」、休業日は「○」、休業日を授業日に変更した日は「●」。

様式1 令和2年度 府立学校行事予定表

7 月			8 月			9 月		
日	曜日	行 事	日	曜日	行 事	日	曜日	行 事
1	水		1	土		1	火	㊟就職校内選考1
2	木	検尿	2	日		2	水	㊟就職生本調査2ㄮ
3	金	検尿	3	月	成績学年会議	3	木	㊟就職校内選考2
4	土	保護者懇談	4	火		4	金	880万人訓練(9:30)
5	日		5	水	㊟応募前職場見学説明会	5	土	PTA役員・実行委員会㊿
6	月	㊟学校就職申込ㄮ切	6	木	集会 大清掃 避難訓練	6	日	
7	火	㊟就職面接練習, 学校幹旋就職説明会	7	金		7	月	
8	水		8	土		8	火	㊟指定校出願説明会1 内科健康相談 ㊟指定校申込2ㄮ
9	木	㊟㊟内科検診 事故防止検診(夏合宿)	9	日		9	水	マナーアップデート
10	金	漢検1 人権学習 (㊟VJリリス1㊟多文化共生講演)	10	月	山の日	10	木	㊟歯科検診
11	土		11	火		11	金	
12	日		12	水		12	土	
13	月	㊟人権学習(デートDV講演) 運営委	13	木	学校閉庁日	13	日	
14	火		14	金	学校閉庁日 7/4土曜日振替	14	月	㊟指定校校内選考2 運営委 ㊟就職試験説明会
15	水		15	土	学校閉庁日	15	火	㊟指定校出願説明会2 ㊟就職面接練習3_1
16	木	職会 ㊟求人情報交換会1	16	日	学校閉庁日	16	水	㊟就職面接練習3_2
17	金	㊟求人票説明会1	17	月		17	木	単位認定会議(インターシップ) 職会 ㊟就職面接練習4_1
18	土		18	火		18	金	㊟就職面接練習4_2
19	日		19	水		19	土	
20	月	1学期末考査1 ㊟am授業	20	木	運営委	20	日	
21	火	1学期末考査2	21	金		21	月	敬老の日
22	水	1学期末考査3 ㊟求人情報交換会2	22	土		22	火	秋分の日
23	木	海の日	23	日		23	水	㊟進学面接練習1_1
24	金	スポーツの日	24	月	職会	24	木	㊟進路ガイダンス
25	土		25	火	㊟指定校推薦説明会	25	金	㊟進学面接練習1_2
26	日		26	水	㊟求人票閲覧日	26	土	1回オープンスクール
27	月	1学期末考査4 情報モラル研修 ㊟求人票説明会2	27	木	㊟就職生予備調査ㄮ	27	日	
28	火	1学期末考査5	28	金	模試 ㊟指定校申込1ㄮ	28	月	
29	水	1学期末考査6ㄮ ㊟進学説明会 ㊟応募前職場見学申込 転入考査	29	土		29	火	㊟進学面接練習2
30	木	答案返却 ㊟進路大テスト+写真撮影	30	日		30	水	
31	金	答案返却 情報モラルHR 教科会 成績入力等ㄮ	31	月	職員健康診断 ㊟指定校校内選考1 ㊟就職生本調査ㄮ			
小 計	学 年		小 計	学 年		小 計	学 年	
	教科・科目の授業日			教科・科目の授業日			教科・科目の授業日	
	学校行事日			学校行事日			学校行事日	
	休業日			休業日			休業日	

各学年の欄……授業日は空欄、学校行事日は「△」、休業日は「○」、休業日を授業日に変更した日は「●」。

様式1 令和2年度 府立学校行事予定表

10月		11月		12月	
日	曜日	行事	日	曜日	行事
1	木	教職員研修(教育相談)	1	日	
2	金	2学期中間1 ㊟科目変更希望㊟切 ㊟科目選択本調査 ㊟就職書類発送	2	月	(体育祭予備日)
3	土		3	火	文化の日
4	日		4	水	
5	月	2学期中間2 運営委	5	木	
6	火	2学期中間3	6	金	
7	水	2学期中間4	7	土	2回オープンスクール 学校運営協議会
8	木	㊟薬物乱用防止教室 職会	8	日	
9	金		9	月	
10	土		10	火	内科健康相談
11	日	英検(外部)	11	水	
12	月		12	木	
13	火	内科健康相談	13	金	文化祭
14	水		14	土	
15	木		15	日	
16	金		16	月	
17	土		17	火	
18	日		18	水	
19	月		19	木	㊟歯科検診 運営委
20	火		20	金	PTA専門委員会・学級委員会
21	水		21	土	
22	木	㊟歯科検診	22	日	
23	金		23	月	勤労感謝の日
24	土		24	火	
25	日		25	水	
26	月	運営委	26	木	マナーアップデー 職会 同窓会
27	火		27	金	校内外清掃
28	水		28	土	
29	木	職会	29	日	
30	金	体育祭	30	月	
31	土		31	木	学校閉庁日
小計	学 年	小計	学 年	小計	学 年
	教科・科目の授業日		教科・科目の授業日		教科・科目の授業日
	学校行事日		学校行事日		学校行事日
	休業日		休業日		休業日

各学年の欄……授業日は空欄、学校行事日は「△」、休業日は「○」、休業日を授業日に変更した日は「●」。

様式1 令和2年度 府立学校行事予定表

1 月			2 月			3 月		
日	曜日	行 事	日	曜日	行 事	日	曜日	行 事
1	金	元日学校閉庁日	1	月	㊟学年末3 運営委	1	月	卒業式予行
2	土	学校閉庁日	2	火	㊟学年末4	2	火	卒業式
3	日	学校閉庁日	3	水	㊟学年末5 ㊟就職内定者説明会②	3	水	出願受付 1
4	月	学校閉庁日 12/5土曜日振替休	4	木	職会 人権学習(㊟㊟レジリエンス)	4	木	答案返却 出願受付 2
5	火	集会 運営委	5	金	㊟答案返却 教科会議 成績提出	5	金	教科会議 出願受付 3
6	水		6	土		6	土	
7	木	職会	7	日		7	日	
8	金		8	月	成績連絡会	8	月	成績連絡会 運営委 職会 単位認定会議(㊟㊟) 進級判定会議
9	土	PTA役員・実行委員会④	9	火	①②図書返却 卒業判定会議	9	火	am㊟㊟欠単位等申し渡し pm学校会場準備・問題送達
10	日		10	水		10	水	学力検査
11	月	成人の日	11	木	建国記念の日	11	木	採点
12	火	㊟図書返却	12	金	漢検 3	12	金	採点
13	水	マナーアップデー	13	土		13	土	
14	木		14	日		14	日	
15	金	㊟校内外清掃	15	月		15	月	終業式(新2・3年教科書販売)
16	土	模試、3回オープンスクール	16	火		16	火	採点予備
17	日		17	水	大掃除	17	水	合格者決定・特別点検 発表準備
18	月		18	木	学年末1	18	木	合格発表・説明会・合格者健康相談
19	火	課題研究全体発表	19	金	学年末2	19	金	中学校訪問 1
20	水		20	土		20	土	春分の日
21	木	㊟課題研究希望調査	21	日		21	日	
22	金	英検 学校保健委員会	22	月	学年末3	22	月	中学校訪問 2 (二次出願・面接)
23	土		23	火	天皇誕生日	23	火	クラス分け 転入考査受付
24	日		24	水	学年末4	24	水	(2次発表) 新入生教科書販売
25	月	㊟修学旅行結団式	25	木	学年末5	25	木	(転入考査)
26	火	㊟修学旅行1	26	金	学年末6事故防止検診(春合宿)	26	金	
27	水	㊟大掃除 ㊟修学旅行2	27	土	学校運営協議会	27	土	
28	木	㊟学年末1 ㊟修学旅行3(探究活動)	28	日		28	日	
29	金	㊟学年末2 ㊟修学旅行4	△			29	月	1/16 土曜日 振替休
30	土					30	火	
31	日					31	水	
小計	学 年		小計	学 年		小計	学 年	
	教科・科目の授業日			教科・科目の授業日			教科・科目の授業日	
	学校行事日			学校行事日			学校行事日	
	休業日			休業日			休業日	

各学年の欄……授業日は空欄、学校行事日は「△」、休業日は「○」、休業日を授業日に変更した日は「●」。

令和 2 年度 大阪府立 伯太 高等学校

全日制の課程 総合学科 教育課程実施計画

1 総表(教科・科目等履修単位数)

教科		入学年度	2				備考	
		学級数	6					
		年次	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	計		
科目								
学校必修科目	国語	国語総合	5			10	○から1科目選択	
		現代文B		3	2			
	地理歴史	世界史A			2	4		
		日本史A		2○				
		地理A		2○				
	公民	現代社会	2			2		
	数学	数学Ⅰ	4			6		
		数学A		2				
	理科	科学と人間生活		2		4		
		化学基礎	2					
	保健体育	体育	3	2	2	9		
		保健	1	1				
	芸術	音楽Ⅰ	2●			2		●から1科目選択
		美術Ⅰ	2●					
		書道Ⅰ	2●					
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	4			9			
	コミュニケーション英語Ⅱ		3	2				
家庭	家庭基礎	2			2			
情報	社会と情報	2			2			
小計		27	15	8	50			
原則履修科目	学 総合	学産業社会と人間	2			2	グローバルスタディー(GSⅠ)	
	小計		2			2		
学校必修科目合計		29	15	8	52			
総合学科選択科目合計		0～1	12～13	20～21	32～35			
教科・科目の計		29～30	27～28	28～29	84～87	(集中講座を含む)		
総合的な探究の時間		0	2	1	3	グローバルスタディー(GSⅡ・Ⅲ)		
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3		
総計		30～31	30～31	30～31	90～93	(集中講座を含む)		

2 系列別表

系列	総合学科選択科目									
	総合選択科目					自由選択科目				
	教科	科目	単位	備考	履修単位数計	教科	科目	単位	備考	
IT・サイエンス	理科	学理科レポート入門	2	2年	0~22	国語	学古典セミナー	2	3年	
		学スペースアドベンチャー	2	2年			学国語の表現	2	2年3年	
		学理科レポート実践	2	3年※			地理歴史	日本史B	4	2・3年継続
	[専門]情報	情報産業と社会	2	2年		地理B		4	2・3年継続	
		情報の表現と管理	2	2年		学日本史演習		2	3年	
		学表計算・文書作成基礎	2	2年3年		学地理演習		2	3年	
		学表計算・文書作成応用	2	3年		公民	倫理	2	3年	
	学プログラミング	2	3年	学教養の社会			2	2年		
	学ITビジネス	2	3年	学公民演習			2	2年		
			学マルチメディア	2		3年				
		学情報演習	2	3年※						
ビジネス・観光	国語	学古典の世界	2	2年	0~24	数学	数学II	4	2年	
		学古典探訪	2	3年			数学III	4	3年	
	地理歴史	学世界史演習	2	3年			数学B	2	2年	
		学社会科学課題研究	2	3年※			学実践数学I	2	2年	
	公民	政治・経済	2	3年			学活用数学	2	2年	
		学時事問題	2	2年3年			学実践数学IA	2	3年	
		学多文化理解	2	3年			学発展数学IA	2	3年	
	商業	ビジネス基礎	2	2年			学発展数学II	2	3年	
		マーケティング	2	3年			学発展数学B	2	3年	
		簿記	2	3年			学活用数学セミナー	2	3年	
[学]観光	学観光I	2	2年	学人物で学ぶ数学史	2	3年				
	学観光II	2	3年※							
ライフスタイル	芸術	音楽・美術・書道II	2	2年 I科目履修者	0~32	理科	物理基礎	2	2年	
		音楽・美術・書道III	2	3年 II科目履修者			物理	2	3年 物理基礎履修者	
		学キーボード演習I	2	2年3年			化学	4	2・3年継続	
		学キーボード演習II	2	3年			生物基礎	2	2年	
		学楽典	2	3年※			生物	2	3年 生物基礎履修者	
		学基礎造形	2	2年			地学基礎	2	2年	
		学表現の研究	2	3年※			学環境科学	2	2年	
		学実用書	2	2年3年			学生活の理科	2	2年	
		学デザイン書	2	3年※			学人体のふしぎ	2	2年	
		学色彩	2	3年			学実用理科	2	2年	
	[専門]家庭	子どもの発達と保育	2	2年3年		学理科ニュース	2	2年3年		
		服飾手芸	2	3年※		学理科ニュース	2	2年3年		
		学食文化	2	3年		学人体生理学	2	3年		
		学食品の安全と衛生	2	2年		学生命科学	2	3年		
	福祉	学栄養理論	2	2年3年						
		学消費者経済学	2	3年						
		学社会福祉基礎	2	2年						
	体育	学介護福祉基礎	2	3年						
学社会福祉演習		2	3年※							
学レクリエーション		2	3年							
		学ダンス	2	3年※						
スポーツ	体育	学スポーツコンディショニング	2	2年	0~8	英語	英語表現	2	3年	
		学アスリートI	2	2年						
		学アスリートII	2	3年※						
		学ライフロングスポーツ	2	3年						
文理探究	国語	学文学概論	2	2年	0~22	[学]国際文化	学韓国・朝鮮語I	2	2年	
		学国語演習	2	2年			学韓国・朝鮮語II	2	3年	
		学文学研究	2	3年※						
		学国語探究	2	3年						
	数学	学数学探究	2	2年						
		学数学課題研究	2	3年※						
	理科	学化学セミナー	2	3年						
		学生物セミナー	2	3年						
	外国語	学英語演習	2	2年						
		学英語探究	2	3年						
学Advanced English I		2	2年							
学Advanced English II		2	3年							
		学イングリッシュワークショップ	2	3年※						
履修単位数計								0~33		
総合学科選択科目 履修単位数計								32~35	但し、集中講座取得者以外は、 32単位	

令和 2 年度 大阪府立 伯太 高等学校
全日制の課程 総合学科 教育課程実施計画

1 総表(教科・科目等履修単位数)

教科		入学年度	31				備 考	
		学級数	6					
		年次	I	Ⅱ	Ⅲ	計		
科目								
学校必修科目	国語	国語総合	5			10	○から1科目選択	
		現代文B		3	2			
	地理歴史	世界史A			2	4		
		日本史A		2○				
		地理A		2○				
	公民	現代社会	2			2		
	数学	数学 I	4			6		△から1科目選択
		数学A		2△				
		(学)基礎からの数学		2△				
	理科	科学と人間生活		2		4		
		化学基礎	2					
	保健体育	体育	3	2	2	9		
		保健	1	1				
	芸術	音楽 I	2●			2		●から1科目選択
		美術 I	2●					
		書道 I	2●					
	外国語	コミュニケーション英語 I	4			9		
コミュニケーション英語 II			3	2				
家庭	家庭基礎	2			2			
情報	社会と情報	2			2			
小計		27	15	8	50			
原則履修科目	学 総合	(学)産業社会と人間	2			2	グローバルスタディー(GS I)	
	小計		2			2		
学校必修科目合計		29	15	8	52			
総合学科選択科目合計		0～1	12～16	20～24	32～41			
教科・科目の計		29～30	27～31	28～32	84～93	(集中講座を含む)		
総合的な探究の時間		0	2	1	3	グローバルスタディー(GS II・III)		
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3		
総計		30～31	30～34	30～34	90～99	(集中講座を含む)		

2 系列別表

系列	総合学科選択科目									
	総合選択科目					自由選択科目				
	教科	科目	単位	備考	履修単位数計	教科	科目	単位	備考	
IT・サイエンス	理科	学理科レポート入門	2	2年	0~22	国語	学古典セミナー	2	3年	
		学スペースアドベンチャー	2	2年			学国語の表現	2	2年3年	
		学理科レポート実践	2	3年※		地理歴史	日本史B	4	2・3年継続	
	[専門] 情報	情報産業と社会	2	2年			地理B	4	2・3年継続	
		情報の表現と管理	2	2年			学日本史演習	2	3年	
		学表計算・文書作成基礎	2	2年3年			学地理演習	2	3年	
		学表計算・文書作成応用	2	3年		公民	倫理	2	3年	
		学プログラミング	2	3年			学教養の社会	2	2年	
		学ITビジネス	2	3年			学公民演習	2	2年	
		学マルチメディア	2	3年		数学	数学Ⅱ	4	2年	
	学情報演習	2	3年※	数学Ⅲ	4		3年			
ビジネス・観光	国語	学古典の世界	2	2年	0~24		数学B	2	2年	
		学古典探訪	2	3年			学実践数学Ⅰ	2	2年	
	地理歴史	学世界史演習	2	3年			学実践数学Ⅰ	2	2年	
		学社会科課題研究	2	3年※			学数学Ⅰ・A演習(α)	1	2年 集中講座 αβの同時履修不可	
	公民	政治・経済	2	3年			学数学Ⅰ・A演習(β)	2	可	
		学時事問題	2	2年3年			学活用数学	2	2年	
		学多文化理解	2	3年			学発展数学Ⅰ・A(α)	1	3年 集中講座 αβの同時履修不可	
	商業	ビジネス基礎	2	2年			学発展数学Ⅰ・A(β)	2		
		マーケティング	2	3年		学実践数学Ⅰ応用	2	3年		
		簿記	2	3年		学実践数学A応用	2	3年		
学観光	学観光Ⅰ	2	2年	学発展数学Ⅱ	2	3年				
	学観光Ⅱ	2	3年※	学発展数学B	2	3年				
ライフスタイル	芸術	音楽・美術・書道Ⅱ	2	2年 I科目履修者	0~32	理科	学活用数学セミナー	2	3年	
		音楽・美術・書道Ⅲ	2	3年 II科目履修者			物理基礎	2	2年	
		学キーボード演習Ⅰ	2	2年			物理	2	3年 物理基礎履修者	
		学キーボード演習Ⅱ	2	3年			化学	4	2・3年継続	
		学楽典	2	3年※			生物基礎	2	2年	
		学造形Ⅰ	2	2年			生物	2	3年 生物基礎履修者	
	学造形Ⅱ	2	3年※	地学基礎			2	2年		
	学実用書	2	2年3年	学環境科学			2	2年		
	[専門] 家庭	学デザイン書	2	3年※			学生活の理科	2	2年	
		学色彩入門	2	3年			学人体のふしぎ	2	2年	
子どもの発達と保育		2	2年3年	学実用理科	2	2年				
服飾手芸		2	3年※	学理科ニュース	2	2年3年				
福祉	学食品の安全と衛生	2	2年	学人体生理学	2	3年				
	学栄養理論	2	2年3年	学生命科学	2	3年				
	学消費者経済学	2	3年	芸術	学鑑賞演習	2	3年			
社会福祉基礎	2	2年	学毎日デザイン		2	3年				
介護福祉基礎	2	3年	学ペン字		2	3年				
体育	学社会福祉演習	2	3年※	外国語	英語会話	2	3年			
	学レクリエーション	2	3年		学スクリーンングリッシュ	2	2年			
学ダンス	2	3年※	学実用英語基礎		2	2年3年				
スポーツ	学スポーツコンディショニング	2	2年	学実用英語応用	2	2年3年				
	学アスリートⅠ	2	2年	[共通] 家庭	学生活技術	2	2年			
	学アスリートⅡ	2	3年※		学フィットネススタディー	2	3年			
	学ライフロンクスports	2	3年		英語	総合英語	2	3年		
			英語表現			2	3年			
文理探究	国語	学文学概論	2	2年	0~24	学総合	学インターンシップ	1・2	1年2年(就) 集中講座	
		学国語演習	2	2年			学就職講座	1	3年 集中講座	
		学文学研究	2	3年※			学国際文化	学韓国・朝鮮語	2・4	2年3年
		学国語探究	2	3年		履修単位数計		0~37		
	数学	学数学探究	2	2年		外国語	学英語演習	2	2年	
		学数学課題研究	2	3年※			学英語演習応用	1	2年 集中講座	
	理科	学化学セミナー	2	3年			学英語探究	2	3年	
		学生物セミナー	2	3年			学英語探究応用	1	3年 集中講座	
	外国語	学英語演習	2	2年		学イングリッシュワークショップ	2	3年※		
		学英語演習応用	1	2年 集中講座		履修単位数計	0~37			
学英語探究		2	3年	総合学科選択科目	32~41	但し、集中講座取得者以外は、32単位				
学英語探究応用		1	3年 集中講座	履修単位数計	32~41	但し、集中講座取得者以外は、32単位				
	学イングリッシュワークショップ	2	3年※							

令和 2 年度 大阪府立 伯太 高等学校
 全日制の課程 総合学科 教育課程実施計画

1 総表(教科・科目等履修単位数)

教科		入学年度	30				備考		
		学級数	6						
		年次	I	II	Ⅲ	計			
学校必修科目	国語	国語総合	5				10		
		現代文B		3	2				
	地理歴史	世界史A			2		4		○から1科目選択
		日本史A		2○					
		地理A		2○					
	公民	現代社会	2				2		
	数学	数学Ⅰ	4				6		△から1科目選択
		数学A		2△					
		(学)基礎からの数学		2△					
	理科	科学と人間生活		2■			4~6		■から1科目選択 生物基礎選択者は さらに□から1科目選択
		物理基礎		2□					
		化学基礎	2						
		生物基礎		2■					
		地学基礎		2□					
	保健体育	体育	3	2	2		9		
		保健	1	1					
芸術	音楽Ⅰ	2●				2	●から1科目選択		
	美術Ⅰ	2●							
	書道Ⅰ	2●							
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	4				9			
	コミュニケーション英語Ⅱ		3	2					
家庭	家庭基礎	2				2			
情報	社会と情報	2				2			
小計		27	15~17	8	50~52				
原則履修科目	〔学〕総合	(学)産業社会と人間	2			2	グローバルスタディー(GSⅠ)		
	小計		2			2			
学校必修科目合計		29	15~17	8	52~54				
総合学科選択科目合計		0~1	10~15	20~25	30~41				
教科・科目の計		29~30	27~32	28~33	84~95	(集中講座を含む)			
総合的な学習の時間		0	2	1	3	グローバルスタディー(GSⅡ・Ⅲ)			
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3			
総計		30~31	30~35	30~35	90~101	(集中講座を含む)			

2 系列別表

系列	総合学科選択科目												
	総合選択科目					自由選択科目							
	教科	科目	単位	備考	履修単位数計	教科	科目	単位	備考				
I.T・サイエンス	理科	学サイエンスアカデミー	2	2年	0~24	国語	学古典文法	2	3年◇	学国語の表現	2	3年 国語演習未履修者◆	
		学スペースアドベンチャー	2	2年			地理歴史	日本史B	4		2・3年継続		
		学サイエンスラボ	2	3年※			地理B	4	2・3年継続				
	[専門]情報	情報産業と社会	2	2年		0~24	公民	倫理	2	3年	学教養の社会	2	3年
		情報の表現と管理	2	2年				数学II	4	2年			
		学表計算・文書作成基礎	2	2年				数学B	2	2年			
		学ITビジネス	4	2・3年継続				学数学I基礎演習	4	2年			
学ゲームデザイン	2	3年	学数学I・A演習	2	2年 7限 ▲								
学情報演習	2	3年※	学活用数学	4	2年								
学表計算・文書作成	2	3年	学発展数学I・A	2	3年 7限 ▲								
学マルチメディア	2	3年	学発展数学II	4	3年								
ビジネス・観光	国語	学古典の世界	2	2年	0~30	数学	学代数・確率基礎演習	4	3年	学幾何・解析基礎演習	4	3年	
		学古典探訪	2	3年◇			学活用数学セミナー	2	3年				
	地理歴史	学世界史演習	2	2年			学数学演習特講	1	2年 集中講座 ▲				
		学社会科課題研究	2	3年※			学発展数学特講	1	3年 集中講座 ▲				
	公民	政治・経済	2	3年			理科	物理基礎	2		2年 総表の物理基礎未選択者		
		学時事問題	2	2年				物理	2		3年 物理基礎履修者		
	理科	学多文化理解	2	3年			化学	4	2・3年継続				
		学観光地質学	2	3年			生物	2	3年 生物基礎履修者				
		学観光I	2	2年			地学基礎	2	2年 総表の地学基礎未選択者				
	商業	学ワールド&イングリッシュ	2	3年			学環境科学	2	2年				
ビジネス基礎		2	2年	学サイエンスビックス	2	2年							
マーケティング		2	3年 ビジネス基礎履修者	学生活の科学	2	2年							
簿記		2	2年	学人体の不思議	2	2年3年							
[学]観光	学ビジネス総合	2	3年 簿記履修者	学実用理科	2	3年							
	学観光II	2	3年 観光I履修者※	学生命科学	2	3年							
	学観光I	2	2年	芸術	学鑑賞演習	2	3年						
学観光II	2	3年 観光I履修者※	学毎日デザイン		2	3年							
学観光II	2	3年 観光I履修者※	学暮らしの中の書		2	3年							
ライフスタイル	芸術	音楽・美術・書道II	2	2年 I科目履修者	0~34	外国語	英語会話	2	3年	学スクリーンイングリッシュ	2	2年	
		音楽・美術・書道III	2	3年 II科目履修者			学実用英語基礎	2	2年3年				
		学キーボード演習	2	2年			学実用英語応用	2	2年3年				
		学楽典	2	3年※			学リスニング	2	3年				
		学造形基礎	2	2年			学英語演習特講	1	2年 集中講座 ☆				
		学造形演習	2	3年※			学英語探究特講	1	3年 集中講座 ☆				
		学実用書	2	2年			[共通]家庭	学生活技術	2		2年		
		学デザイン書	2	3年※				学フィットネス・スタディー	2		3年 スポーツ系列科目未選択者		
	学色彩入門	2	3年	[専門]家庭		学子ども発達と保育	2	2年3年					
	学子ども発達と保育	2	2年3年			学服飾手芸	2	3年※					
福祉	学フードデザイン	2	2年3年	学食文化	2	2年3年							
	学暮らしと知識	2	3年	学社会福祉基礎	2	2年							
	学社会福祉基礎	2	3年	学介護福祉基礎	2	3年							
体育	学社会福祉演習	2	3年※	学体育	2	3年							
	学レクリエーション	2	3年	学ダンス	2	3年※							
スポーツ	体育	学スポーツコンディショニング	2	2年	0~8	[共通]家庭	学生活技術	2	2年				
		学アスリートI	2	2年			学フィットネス・スタディー	2	3年 スポーツ系列科目未選択者				
		学アスリートII	2	3年※									
		学ライフロンクススポーツ	2	3年									
文理探究	国語	学文学概論	2	2年	0~26	英語	英語理解	2	3年				
		学国語演習	2	2年 進路別に講座を分割			英語表現	2	3年				
		学文学研究	2	3年※			[学]総合	学インターンシップ	1・2	1年2年(就) 集中講座			
		学国語探究	2	3年 進路別に講座を分割◆				学就職講座	1	3年 集中講座			
	数学	学数学探究	2	2年		[学]国際文化	学韓国・朝鮮語	2・4	2年3年				
		学数学課題研究	2	3年※									
	理科	学化学セミナー	2	3年		履修単位数計	0~35						
		学生物セミナー	2	3年			総合学科選択科目履修単位数計	30~41	但し、7限および集中講座取得者以外は、30~32単位				
	外国語	学英語演習	2	2年 進路別に講座を分割									
		学英語演習C	2	2年 7限 ☆									
学英語探究		2	3年 進路別に講座を分割										
学英語探究C		2	3年 7限 ☆										
学イングリッシュワークショップ	2	3年※											

※は課題研究科目で必ず1科目履修する。 ◇および◆、▲、☆は同じマークの科目の同時受講ができない